

## いよいよ12月

令和3年も残すところ少なくなりました。少しずつ寒さも厳しくなっています。コロナ感染の状況は全国的に落ち着いていますが、新しい変異株が発見され、注意も必要です。熊本市は感染者数は0人を続けていてレベル2から1に引き下げられました。続けて感染防止を行いながら、これからも教育活動を進めていきたいと思っています。

11月には不審者避難訓練、火災避難訓練、教育相談等を実施しました。全校児童が一齐に同じことに取り組むことはとても大切です。集団の中でどう判断するのか、どのように行動するのか、集団ですが一人ひとりがしっかり考える機会となります。また、教育相談では担任の先生が一人ひとりの子どもたちと相談を行いました。

### 「これ、何だろう？」

校舎の通路の至る所に、黄色い液体が入ったペットボトルが廊下、通路の中央に置かれています。廊下の右側を落ち着いて歩き、ぶつかったりしない様みんなに促して



います。合わせて、教室の出入り口に一旦停止の表示をしています。

11月の生活目標は「廊下は右側を静かに歩こう」でした。

学校生活を落ち着いて生活することは、生活習慣、学習習慣にとっても大切なことです。1つの事から様々な生活状況が分かります。お家の方が学校での様子を理解することは子どもたちの成長にとっても大切なことです。

### 「校内音楽会」

11/26(金)には5・6年生クラスごとによる演奏会、4年生は拍手や体の動きで1.2.3年生に披露してくれました。



どのクラスも音楽の授業の時から熱心に練習し緊張感のある中、すばらしい演奏ができました。

## 剣道と私 ⑤

中学、高校、大学、社会人として剣道を続けてきて多くの先生方に教えを受け、練習をすることができました。また、部活動では剣道部を担当させてもらうことが多く、様々な子どもたちや監督の先生方や保護者の皆様に出逢えたことは、教職人生の宝となっています。監督として、1年間で生徒一人あたり700から1000の試合を見たこともあります。子どもたちの性格、筋力や体力が違いから声かけや指示も様々でした。

団体戦や個人戦では、監督は、試合場に正座して応援します。基本的に声を出して応援することはできませんので、試合を見守ることになります。面をつけていますので、はっきりと顔の表情を読み取ることはできませんが、2~3cmの面金の間から覗き見る目の動きを見ることができます。試合中に指示したいときには「領き」や「小さな手の動き」などで子どもたちに伝えます。「領いている」ならば、「そのような試合運びでよい」という事ですし、「手を横にして手頸を回す」と、「もう少し早く打ち始めなさい、遅れて打っているので打たれて負けてしまう」というサインです。子どもたちなりに理解して、試合をしてくれたように思います。中体連の全国大会では、こんな小さな動作も注意や反則となります。子どもたちが振り向いて、監督の方を見ることさえ禁止されます。それでも、何とか伝えたいことがあれば、試合中に「やめ」という審判の合図があると、開始線にもどります。その開始線にもどる時に、監督の方を自然に見るようにします。そしてそのわずかな間に、まさしくアイコンタクトで試合の状況を監督は伝えます。(うまく伝わっているかはわからないときもありました)(あえて、目を合わさない、よそ見をするときもありました)そして、共に試合をする、という一体感で試合を見守ります。

日々の練習で、時には寄り添い、時には厳しく接し、子どもたちや子どもたちの背景を理解していきます。接して理解して教えることが上達の道へとつながっていきます。いつも放課後の同じ時間に、同じ場所で、一緒に練習して、学校生活を送っているからこそ理解できていたことだと思っています。